

「第9次総量削減計画（素案）」及び「総量規制基準（素案）」に係るパブリックコメントの募集結果について

資料2-2

令和4年6月13日（月）から令和4年7月12日（火）までの間、オープンとくしま・パブリックコメント制度による意見を募集したところ、6名の方から12件のご意見を寄せられました。いただいたご意見に対する県の考え方は次のとおりです。

	ご意見（概要）	ご意見に対する県の考え方
1	<p>（本計画2頁、表2 発生源別の削減目標量（窒素）の産業排水についてのご質問） 削減目標で窒素に関して産業排水が2トン増えていることが気になりました。 現状で海の水質に問題があるのにさらに削減されたらもっと海に栄養が減り状況が悪化するのではないかと懸念があります。</p>	<p>「令和6年度削減目標量」は「令和6年度の許容量（1日に発生する汚濁物質の上限値）」、「令和元年度における量」は「令和元年度の排出量（1日に発生した汚濁物質の実績値）」を表します。 本計画2頁、表2の産業排水（窒素）は、令和元年度の排出量が2トン/日、令和6年度の許容量が4トン/日であり、「削減する量」を2トン/日増やすのではなく、「発生する量」が許容量まで4トン/日あることを意味しています。 また、本計画では、現在の水質の維持を目指すため、窒素全体の「令和6年度削減目標量」は、前回の「令和元年度（第8次）削減目標量」から据え置き（計19トン/日）とし、栄養塩類（窒素、りん）の不足が懸念される海域については「第3,2,(1) 海域の実情に応じたきめ細やかな栄養塩類管理の推進」（5頁）に基づき、取り組んで参ります。 なお、本計画2頁、表1～3について「令和元年度における量」を「令和元年度排出量」に修正するとともに、参考として「令和元年度（第8次）削減目標量」を追記します。</p>
2	<p>「2 生物多様性・生産性の確保に向けた水環境の改善」に、「また、養殖ワカメ、ノリ等で色落ち被害が発生していることから、順応的かつ機動的な栄養塩類の管理等、特定の海域ごと、季節ごとの地域の実情に応じたきめ細やかな水質管理を行う。」とあるのですが具体的にどう管理するのか。</p>	<p>「第3,2,(1) 海域の実情に応じたきめ細やかな栄養塩類管理の推進」（5頁）について、次のとおり修正します。 「養殖ワカメやノリ等の海藻類の色落ちが見られる海域において、本県独自の施肥技術の現場実証試験を実施するとともに、旧吉野川浄化センターにおいて栄養塩類の季節別管理運転の実証実験を行うなど、環境保全と漁業生産とのバランスのとれたきめ細やかな栄養塩類管理を推進する。 また、県内海域・河川の栄養塩類等について、最新知見の情報収集を行うとともに、既存知見を部局横断的に整理・統合し、地域の実情に応じた栄養塩類増加措置を検討する。」</p>
3	<p>素人の考えですが、下水の整備の話と絡んで来るように思います。下水の整備を進めていただきたいです。</p>	<p>良質な水質と生物多様性や生産性など自然の恵みが享受できる「とくしまのSATOUMI」の実現には、「汚濁負荷削減による水質保全」が必要であり、その方策として、「生活排水の改善」が求められているところです。 ご意見いただきましたとおり、「下水道の整備」と「合併処理浄化槽の促進」の両輪で、生活排水の改善を進めて参りたいと考えております。 「下水道の整備」については、事業効果が高い地域を重点的に整備を行うことで、事業の効率化を図っているところです。 今後も引き続きこうした施策の推進に努め、生活排水の改善に取り組んで参ります。</p>
4	<p>農林水産系の規制となると、農薬とか肥料でしょうか。なかなか実際の事業者における規制は難しいような気がします。</p>	<p>県では、削減目標量の達成に向けて、「第3,1,(3) ①環境保全型農業の推進」（5頁）に基づき、化学肥料の使用量の低減や土壌診断に基づく適正な施肥に関する栽培技術について、事業者への指導・啓発等を行うことにより、環境負荷の低減等に配慮した環境保全型農業を推進し、農地に由来する負荷の軽減を図って参ります。</p>

	ご意見（概要）	ご意見に対する県の考え方
5	家畜の排泄物を亜臨界で処理する事でアンモニアを回収しようという研究がされています。また、リン脂質に対しても同様に行われている研究があります。これにより窒素、リンを回収し肥料として再利用するのはいかがでしょうか？	高温・高圧領域で高速加水分解反応により、有機物を効率的に分解する亜臨界水処理技術については、研究段階にあることから情報収集に努め、今後の家畜排せつ物対策を推進する上で参考とさせていただきます。
6	美しく、豊かな瀬戸内海の実現に向け、県民が、海の大切さを理解し、自分に出来ることを実践する必要があると思います。このため、身近な環境について学ぶ講座を通じて、一人一人どの様な事を気を付けて生活していくべきか、子供から大人まで、多くの人々への情報発信を充実させることが必要だと思います。	これまで県では、小中学校を中心とした環境学習講座、水環境や里海に関する知識を持つ「里海」創生リーダーの育成講座、住民等との協働による海岸生物調査・水生生物調査など水環境教育の実施に取り組んで参りました。 第9次の計画では、第8次までの取組に加えて、「里海」創生リーダーのスキルアップを図る「応用・実践講座」の創設、「子ども向け教材」の作成、「子ども講座（仮称）」の企画のほか、広報・啓発を充実させるために動画や二次元バーコードを活用した情報発信に取り組んで参ります。
7	きれいな海を次世代に継承するには、子どもの頃からの環境教育が重要になると思います。	また、本計画の「第3.3.(2) ①未来につなぐ「里海」創生リーダーの育成」（6頁）に『さらに、「子ども向け教材」の作成や「子ども講座（仮称）」の企画を「里海」創生リーダーと協働で実施し、次世代へ「豊かな水環境」の継承を推進する。』を追記します。
8	里海づくりの活動は、まだまだ県民に知られていないと思いますので、積極的な啓発を期待しています。	
9	瀬戸内海の水質はきれいになったと聞きます。今後もきれいな海を守るために継続して取組をお願いします。	今後も、本計画や「瀬戸内海の水質汚濁の防止に関する徳島県計画」に基づき、きれいで豊かな海「とくしまのSATOUMI」づくりを進めて参ります。
10	水質汚濁物質の総量規制であるが、目標に入っている里海の実現では生産性や生物多様性を実現するためには、総量規制のみならず施策体系の説明が記載されていて良いと思いました。 「2総量削減計画の概要」の（3）とくしまのSATOUMIを実現するための3つの戦略については、ぜひ一体的に実現して欲しいと感じました。	本計画では、基本となる「汚濁負荷削減による水質保全」、「生物多様性・生産性の確保に向けた水環境の改善」、里海づくりの普及啓発など「基盤となる施策の推進」からなる「3つの戦略」を掲げ、各種施策を一体的に取り組み、きれいで豊かな海「とくしまのSATOUMI」を実現できるよう、関係者と連携しながら進めて参ります。
11	水質の規制基準については国の基準以外にも着目すべき指標があるのではないのでしょうか。 例えば地域によってはネオニコチノイド系農薬への指摘があるように徳島県において独自に検討すべき指標についても検討を進めていただきたいです。 他方で、総量規制にかならずしも掛からない指標で水質保全に関係する項目がある可能性や、総量規制の限界（総量規制以外に水質に影響する項目）たとえば山からの土砂流出増加や濁りの発生等や台風や災害による流出物質、そのほかの捉えられていない汚染源等があるようにも思いますが、それらの事は水質に影響があると思うので記載すべきではないでしょうか。	本計画は、瀬戸内海の水質汚濁（有機汚濁、富栄養化）の防止を図るため、水質汚濁防止法に基づき、国が策定する「総量削減基本方針」に定められた汚濁物質の総量の削減目標量を達成するために各種施策を講じます。 削減目標量の内訳には「生活排水」、「産業排水」、「その他」の3区分があり、土地由来の汚濁物質は削減目標量の「その他」の区分に反映されております。 現在、削減対象となる項目は有機汚濁の指標である「化学的酸素要求量」、富栄養化の関係物質である「窒素」及び「りん」の3項目になります。 有害物質等は対象に指定されていませんが、水質保全対策に重要と考えますので、いただきましたご意見につきましては、今後の施策を推進する上での参考とさせていただきます。
12	5頁の2および6頁の3の項については、今後において気候変動対策で国土強靱化が進みますが土木工事による環境変化は生態系に大きく影響します。 各種施策のなかにはこれら土木工事の影響との調整、加えて気候変動による海水温上昇、二酸化炭素濃度の上昇、酸性化等の懸念が予測される事象の書き込みが出来ていません。また洋上風力発電の開発も予測に加えて対応を考えるようにしても良いと思います。 これらについては何らかの対応を担保できるようにするべきだと考えます。	ご意見を踏まえ、「第3.2.(4) 生物と共生する環境配慮型構造物の採用」（6頁）の1文目を『新たな護岸等の整備や既存の護岸等の補修・更新時には、環境に配慮し、施工性及び経済性等も考慮しつつ、生物の生息・生育空間の再生・創出のため、環境配慮型構造物を採用するよう努める。』に修正するとともに、今後の施策を推進する上での参考とさせていただきます。 なお、気候変動への対応につきましては、今年度末に改定予定の「瀬戸内海の水質汚濁の防止に関する徳島県計画」において、環境モニタリング充実、調査研究等の推進について盛り込み、取り組んで参ります。